

第45回 ひたちなか市公共交通活性化協議会

次 第

とき 令和7年11月20日（木）午前10時から
ところ ひたちなか市役所 第3分庁舎
防災会議室1, 2

1 開 会

2 会長挨拶

3 議 事

（1）協議事項

- ① ひたちなか市地域公共交通計画における施策案について
(計画策定特別小委員会からの報告)
- ② ひたちなか市地域公共交通計画素案について

（2）その他

4 そ の 他

5 閉 会

本日の進行

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 議事
- (1)協議事項

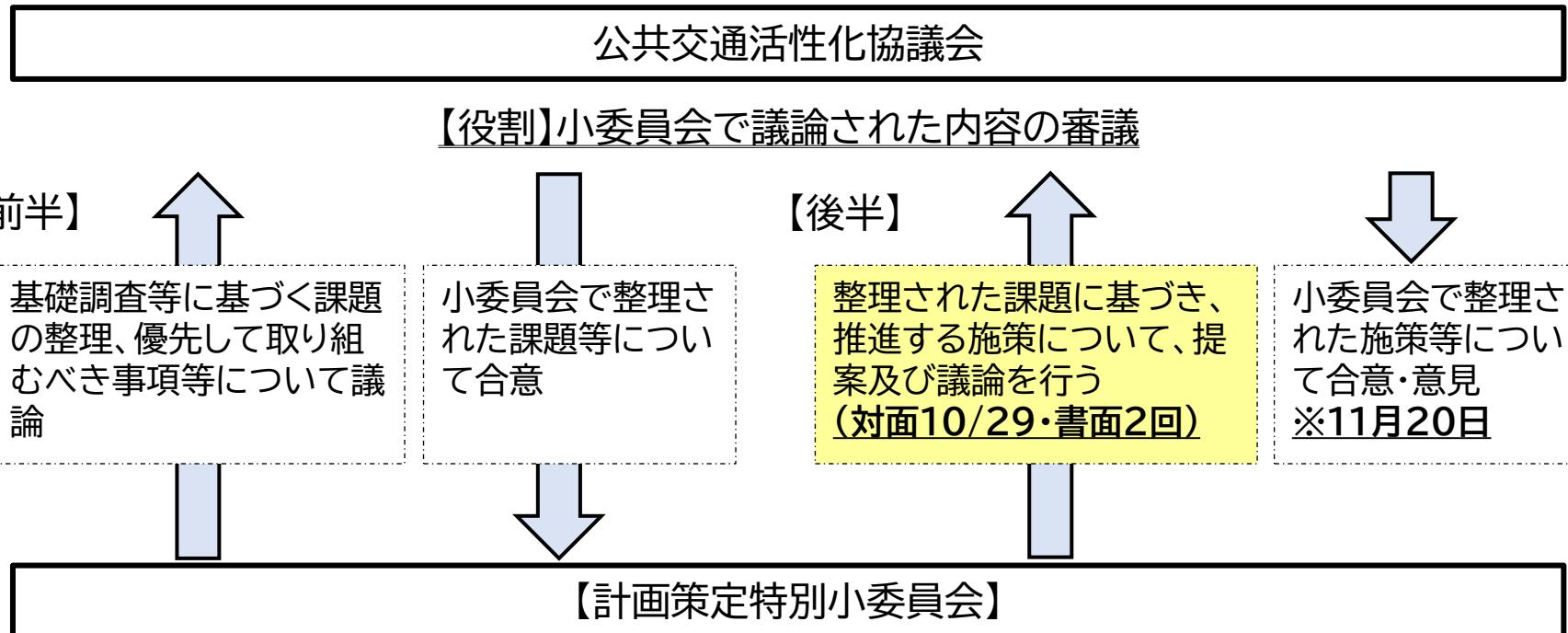
① ひたちなか市地域公共交通計画の施策案について
(計画策定特別小委員会からの報告)

② ひたちなか市地域公共交通計画素案について

- (2)その他

- 4 その他
- 5 閉会

① ひたちなか市地域公共交通計画の施策案について

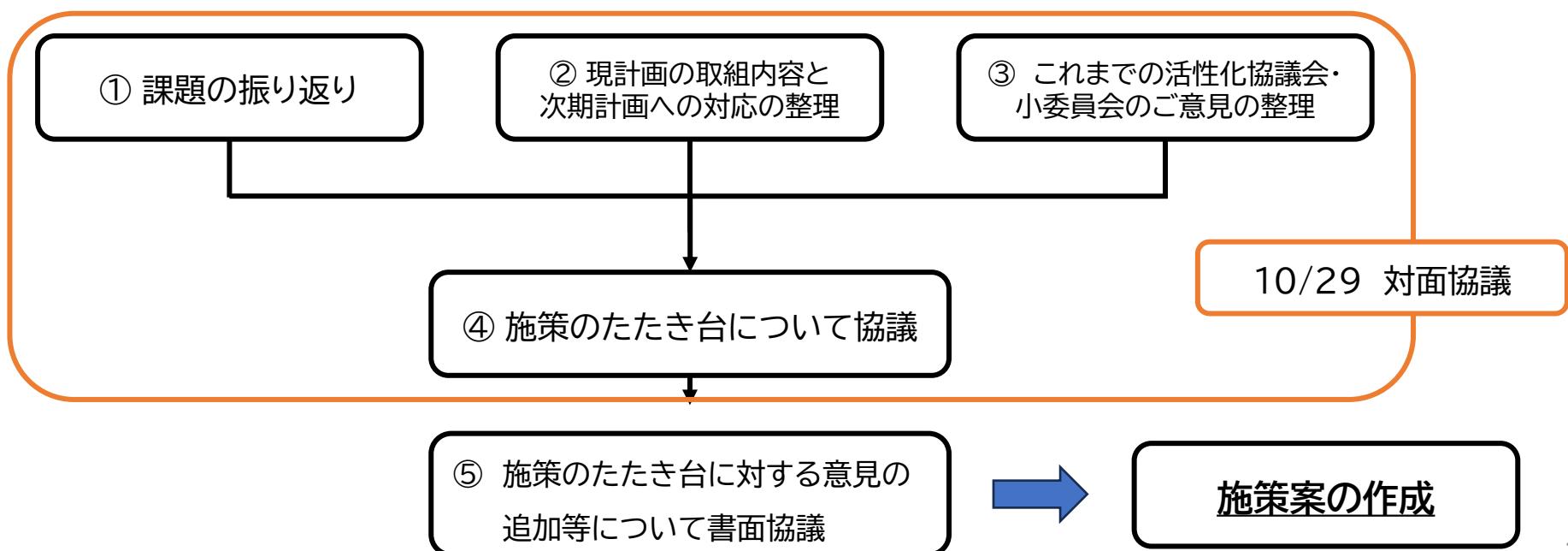


【役割】現状や課題、施策等について、議論を深める

① ひたちなか市地域公共交通計画の施策案について

【第2回計画策定小委員会】

- ① 課題の振り返り
- ② 現計画の取組内容と、次期計画への対応の整理（※参考資料1）
- ③ これまでの活性化協議会及び小委員会のご意見の整理（※参考資料2）
- ④ 施策のたたき台について対面協議（10月29日）（※参考資料3）
- ⑤ 施策のたたき台に対する意見の追加等について書面協議（10月29日～11月4日、11月11日～14日）
(※参考資料4)



①ひたちなか市地域公共交通計画の施策案について

課題の説明文の修正について

【課題1】 広域交通ネットワーク及び階層化ネットワークを活かした連携の強化

ポイント	JR・湊線・バス等を活かし、都市拠点間や地域内の移動がスムーズにつながる仕組みづくりが必要です
背景	ひたちなか市は4つの都市拠点を位置付けており、鉄道とバスを連携させたネットワーク構築が重要です。「利用者は複数の公共交通を組み合わせて行動する」との声もあり、幹線と支線を結ぶネットワークの強化による利用促進のほか、観光需要の取り込みが求められています。

【課題2】スマイルあおぞらバスの最適化

ポイント	市民生活に密着した移動手段とするため、ルートや時間帯の柔軟な見直しに加え、バス停配置の工夫など、誰もが使いやすい利便性が求められます。
背景	本市は公共交通のカバー率が高く、地域全体を支えるネットワークが整っています。一方で、生活動線上のバス停設置や、乗り継ぎを考慮したダイヤ設計など、スマイルあおぞらバスを一層利用しやすい環境を整えていくことが求められています。また、高齢化が進む中、免許返納の促進や介護予防の効果も想定して、ニーズに対応することが求められているほか、スマイルあおぞらバス運賃のあり方を考えていく必要があります。

①ひたちなか市地域公共交通計画の施策案について

課題の説明文の修正について

【課題3】誰もが利用しやすい公共交通サービスの提供

ポイント	誰にとっても使いやすい公共交通を目指す必要があります
背景	「バスのルートや時刻がわかりづらい」「調べ方が難しい」といった声が多く寄せられており、わかりやすい情報提供が求められています。また、沿線自治体や交通事業者など多様な主体と連携した利用促進や渋滞対策、さらには、新たな技術の活用の検討によるサービスの改善などを通じて、地域交通の利便性向上を図ることが求められています。

【課題4】既存の公共交通を維持する取組の充実

ポイント	今ある交通資源を大切に活かし、利用促進と協働によって持続可能な公共交通を実現することが求められます
背景	各公共交通の利用者数は、コロナ禍以降、回復傾向にありますが、人口減少や働き方の変化等により定期利用はコロナ前の水準に戻っていない現状があります。アンケートでは「公共交通を使っている人ほど満足度が高い」との結果もあり、JR線、湊線、バス等公共交通全体の利用促進が必要です。「乗って残す」ことの周知を図り潜在的な需要を取り込むほか、公共交通を市民とともに育てていく姿勢が地域交通維持のカギとなります。

①ひたちなか市地域公共交通計画の施策案について

課題の説明文の修正について

【課題5】 介助や同行が必要な方の移動支援

ポイント	一人では公共交通を利用することが難しい方や バス停や駅まで歩けず公共交通を利用することが難しい方 を支えるための移動支援の仕組みが求められています。
背景	一人で、バスや鉄道を利用できる方については、公共交通の利用を促進しています。一方で、介助や同行を伴う移動サービスは、担い手不足や採算性が課題となっています。そのため、公共交通を利用できず介助を必要とする方の移動ニーズに十分応えることが難しくなっています。こうした方々の移動をどのように支えるかについて、関係機関が連携して取り組むことが重要です。

① ひたちなか市地域公共交通計画の施策案について

対応する課題

【課題1】広域交通ネットワーク及び階層化ネットワークを活かした連携の強化

施策①	<p>鉄道事業再構築実施計画に基づくひたちなか海浜鉄道湊線鉄道事業再構築事業の実施 【特定事業：鉄道事業再構築事業】</p>
施策の概要	<p>延伸事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿字ヶ浦駅から国営ひたち海浜公園西口付近まで延伸する。 ・阿字ヶ浦駅に列車交換設備を整備する。 <p>利用環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要駅に多言語・キャッシュレス対応券売機を導入する。 ・那珂湊駅トイレを洋式化し、市内外の利用者の利便性を向上させる。 <p>施設・車両の更新</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湊線第四期基本計画（R5～R9）に基づき、施設・車両を計画的に更新する。 ・安全で安定した運行体制を確保する。
実施主体	<p>ひたちなか海浜鉄道株式会社、市</p>
網計画との関係	<p>ひたちなか海浜鉄道の延伸、ひたちなか海浜鉄道の新駅設置、公共交通結節点の整備、鉄道車両の購入、鉄道施設更新の推進</p>

解決が期待できる課題

- ・都市拠点間※の移動がスムーズにつながる。
 ※中心市街地、那珂湊地区、ひたちなか地区、佐和地区
- ・ネットワーク構築に伴い利用が促進され、沿線住民の利便性向上や観光需要の取り込みが期待できる。

① ひたちなか市地域公共交通計画の施策案について

対応する課題

【課題1】広域交通ネットワーク及び階層化ネットワークを活かした連携の強化

施策②	市内交通網の連携強化
施策の概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ ダイヤの接続性向上 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道のダイヤ合わせてバスのダイヤを調整するなど、接続性を向上させる。 ■ 乗り継ぎ促進の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通乗車券や乗り継ぎ割引の導入を検討する。 ■ 交通結節点の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 勝田駅、佐和駅から徒歩圏内のバリアフリー化を推進する。
実施主体	交通事業者、市
網計画との関係	市内交通体系の強化、乗り継ぎを促進する料金体系の導入、共通乗車券の導入、佐和駅の東西自由通路設置及び駅舎橋上化、交通施設のバリアフリー推進

解決が期待できる課題

鉄道とバスの連携を強化することで利便性を向上させることで、公共交通の利用や高齢者の免許返納を促進し、都市拠点間や地域間の移動や交流を活性化させる。

① ひたちなか市地域公共交通計画の施策案について

対応する課題

【課題2】スマイルあおぞらバスの最適化

施策③	スマイルあおぞらバスのルート等の改善
施策の概要	<p>■ ルートやダイヤ等の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用の実態や利用者ニーズを踏まえ、ルート・ダイヤ・停留所配置等を改善する。 時間帯に応じた運行の柔軟化を検討する。 <p>■ 安定運行の維持と運賃のあり方の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ルート等の見直しに伴う費用負担のあり方や、持続的な運行を維持するための、運賃のあり方を検討する。
実施主体	運行事業者、市
網計画との関係	スマイルあおぞらバスの充実・強化、佐和地区とひたちなか地区との新規路線検討、日常的な利用を促進する料金体系の導入、利用ニーズの把握と反映、コミュニティバスの車両の更新

解決が期待できる課題

ルートや時間帯の見直しや停留所配置の工夫を行うことで、スマイルあおぞらバスの利便性を向上させ、高齢者の免許返納を促進するとともに、誰もが使いやすい移動手段とする。

① ひたちなか市地域公共交通計画の施策案について

対応する課題

【課題2】スマイルあおぞらバスの最適化

施策④	<h2>生活圏内の移動に関する利便性向上策等の検討</h2>
施策の概要	<p>■スマイルあおぞらバスの「フリー乗降制度」導入の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通量が少ないなど安全性が確保できる区間において、停留所以外で乗降ができる、フリー乗降制度の導入を検討する。 <p>■最寄りのバス停へのアクセス向上策の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 停留所の近くにある公共施設などの駐輪スペースを活用し、自転車でバス停までアクセスできる「サイクル・アンド・ライド」など、スマイルあおぞらバスの利便性向上につながる取組を検討する。 <p>■免許返納者への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 65歳以上の免許返納者を対象に、1年間のスマイルあおぞらバス無料乗車制度を継続する。
実施主体	市
網計画との関係	運転免許返納者への対応

解決が期待できる課題

フリー乗降等の導入検討により、利便性を高めるとともに、誰もが使いやすいスマイルあおぞらバスを実現する。また、免許返納の無料制度を継続し、免許返納の促進や公共交通への理解を高める。

① ひたちなか市地域公共交通計画の施策案について

対応する課題

【課題3】誰もが利用しやすい公共交通サービスの提供

施策⑤

わかりやすい情報の発信

■オープンデータの整備

- スマイルあおぞらバスの時刻データをGTFS形式で整備する。
- 検索エンジンや乗換案内アプリ等で、出発地から目的地までの乗換検索ができる環境を整備する。

施策の概要

■マイ時刻表の作成・普及

- 利用者が、頻繁に利用する経路や時刻を記入できる早見表「マイ時刻表」の様式を作成する。
- 関係者と連携しながら、市民への周知・普及を図る。



<参考事例：常陸太田市マイ時刻表>

実施主体

市、活性化協議会、等

網計画との関係

わかりやすい案内の整備、スマイルあおぞらバスの充実・強化、時刻表の見直し、公共交通総合パンフレットの作成

解決が期待できる課題

デジタル技術と紙媒体を組み合わせた分かりやすい案内が充実する。

① ひたちなか市地域公共交通計画の施策案について

対応する課題

【課題3】誰もが利用しやすい公共交通サービスの提供

施策⑥	<p>多様な主体と連携した利用促進 【特定事業：鉄道事業再構築事業】</p>
施策の概要	<p>■多様な関係者と連携した利用促進 沿線自治体や交通事業者等と連携し、公共交通の利用促進に取り組む。 例：沿線自治体と連携して、常磐線利用促進活動用ノベルティを作成し配布</p>
■ 観光需要に適応した利用促進と対策 関係機関と連携し、観光地周辺の渋滞対策として公共交通の利用促進やパークアンドライドの実施、変動する移動需要に合わせた柔軟な運行や新たな対策を検討する。	
実施主体	沿線自治体、交通事業者、等
網計画との関係	地域との連携推進、商店街との連携事業の促進、駅前空間の環境整備、観光地へのパークアンドライド駐車場の整備、環境施策との連携推進

解決が期待できる課題

誰もが利用しやすい公共交通の実現

① ひたちなか市地域公共交通計画の施策案について

対応する課題

【課題3】誰もが利用しやすい公共交通サービスの提供

施策⑦	ICT等を活用した技術の導入検討
施策の概要	<p>■デジタル化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> スマイルあおぞらバスの時刻データをGTFS形式で整備する。 <p>■利便性向上技術の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> アプリを活用したシェアサイクルや運転免許が不要な小型モビリティなど、新たな移動手段の適合性を検討する。 <p>■技術動向の調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術の進展を注視しつつ、地域特性や住民ニーズに合った新たな移動手段となりうる技術を調査する。
実施主体	市、交通事業者
網計画との関係	ICカード導入の検討

解決が期待できる課題

誰もが利用しやすい公共交通の実現



<参考事例>
【まえばしシェアサイクルコグベ】
 (群馬県前橋市)

① ひたちなか市地域公共交通計画の施策案について

対応する課題

【課題4】既存の公共交通を維持する取組の充実

施策⑧	公共交通を担う人材確保に向けた取組
施策の概要	<p>■就職イベントの周知等</p> <ul style="list-style-type: none">・交通事業者等が合同で開催する就職説明会を周知する。・市や近隣自治体が開催する就職説明会において、交通事業者の出展を促進する。・先進事例等を踏まえながら、人材確保に資する取組を調査する。 <p>■技術動向の調査</p> <ul style="list-style-type: none">・将来的な人手不足への対応に向け、自動運転技術の適合性について調査する。
実施主体	交通事業者、市
網計画との関係	新規

解決が期待できる課題

今ある交通資源を大切に活かし、協働により持続可能な公共交通を実現する。

① ひたちなか市地域公共交通計画の施策案について

対応する課題

【課題4】既存の公共交通を維持する取組の充実

施策⑨

市民の公共交通に対する意識醸成と理解向上

■市民への意識醸成

- ・市ホームページ等での情報発信や、市政ふれあい講座（出前講座）などの意見交換制度を通じて、市民に公共交通の現状や利用方法を考える機会を提供し、公共交通を利用する意識を醸成する。

■理解向上を目的とした啓発活動の実施

<例>

- ・イベント等の機会に、「らくがきバス」（バス側面に自分の好きな絵をマジックで描くことができる）ブースを出展し、公共交通に触れる機会を創出する。
- ・小中学生を対象に、夏休み期間にスマイルあおぞらバスに無料で乗車できる機会を実施し、公共交通に触れる機会を創出する。
- ・高齢者を対象に、スマイルあおぞらバスに無料で乗車できる機会を実施し、運転免許返納者を含めた外出促進を図る。

施策の概要

実施主体

市、交通事業者、等

網計画との関係

公共交通教育の推進、広報活動の強化、運転免許返納者への対応

解決が期待できる課題

- ・利用促進と協働により持続可能な公共交通を実現する。
- ・公共交通を市民とともに育していく。

① ひたちなか市地域公共交通計画の施策案について

対応する課題

【課題5】介助や同行が必要な方の移動支援

施策⑩	福祉分野との連携
施策の概要	<p>■福祉分野との連携による実態把握</p> <p>移動に際し介助や同行が必要な方や、バス停まで歩けず公共交通を利用することが難しい方など、対象者が限られる施策については、福祉分野と連携し、実態を把握するとともに、人数や分布等を明確にしていく。</p> <p>■関係者との情報共有と連携強化</p> <p>把握した実態等については、福祉事業者や交通事業者などの関係者と共有し、新たな移動支援サービスの検討や事業提案につなげるなど、公民連携のうえ進めていく。</p>
実施主体	市、福祉事業者、交通事業者
網計画との関係	新規

解決が期待できる課題

介助や同行が必要な方やバス停まで歩けず公共交通を利用することが難しい方について、外出機会の創出や健康維持の促進につなげる。

※参考資料

参考資料1 現計画の取組状況と次期計画への対応

公共交通の充実・強化、公共交通機関相互の適切な役割分担とさらなる連携を目指します				
計画目標① 網形成計画 の取組	取組概要	取組状況（達成内容）	対応する課題	施策案と の対応
①市内交通体系 の強化	バス路線の体系と乗継 の利便性を高め、運行 のない時間帯をスマイル あおぞらバスで補完 する	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年3月にスマイルあおぞらバスにおいて柳 が丘・関戸地区で路線バスの運行がない時間帯の 運行を開始。 佐和駅の供用開始に伴い、「勝田中央コース」 において、佐和駅とひたちなか地区を結ぶルート を増設。 	課題1	施策②
②スマイルあお ぞらバスの充 実・強化	交通不便地区の解消に 向け、地域ニーズに応 じた増便や運行時間の 拡大、車両の増備を検 討する	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年以降、計6回にわたり地域や利用者の ニーズ、運行事業者の意見等を聞きながら、ルート ・ダイヤ等の見直しを行い、交通不便地区の解 消を進めており、令和6年度は初めて利用者数が 20万人を突破。 平成30年10月14日には、「平磯・那珂湊市街地 コース」を新設し、令和6年度には当初の利用者 数より約25%増の10,625人が利用するなど、一定 の効果が現れている。 また、令和6年度には佐和駅とひたちなか地区 を結ぶルートを増設し、約1割ほど利用者の増。 	課題2	施策③

参考資料1 現計画の取組状況と次期計画への対応

計画目標①	公共交通の充実・強化、公共交通機関相互の適切な役割分担とさらなる連携を目指します			
網形成計画の取組	取組概要	取組状況（達成内容）	対応する課題	施策案との対応
③わかりやすい案内の整備	スムーズな乗り継ぎのため、駅前等の案内の充実を図る	スマイルあおぞらバスにおいて、路線番号とバス停番号を導入し、複数コースが発着する駅前などのわかりやすい案内表示を実施。	課題3	施策④
④乗り継ぎを促進する料金体系の導入	スマイルあおぞらバスや湊線など、乗継割引料金制度の導入を検討する	乗継割引制度の導入に向けて検討を行った結果、事業者間での割引率の調整等、実施にあたっての課題が明らかになったため、現時点での導入には至ってない。	課題1	施策②
⑤共通乗車券の導入	路線バスとスマイルあおぞらバスで使える共通回数券や共通1日乗車券の導入を検討する	令和3年度から令和5年度にかけて、海浜鉄道と路線バスの共通1日フリー切符を電子チケットで販売し、公共交通の連携を進めた。	課題1	施策②
⑥佐和地区とひたちなか地区との新規路線の検討	佐和駅とひたちなか地区を結ぶ新規バス路線を検討する	JR佐和駅の供用開始に伴い、「佐和地区」と「ひたちなか地区」の接続を図るため、スマイルあおぞらバス「勝田中央コース」を佐和駅東口ロータリーへの延伸を実施。	課題2	施策③

参考資料1 現計画の取組状況と次期計画への対応

まちづくりと連携した公共交通体系を目指します				
計画目標② 網形成計画 の取組	取組概要	取組状況（達成内容）	対応する課題	施策案との 対応
①ひたちなか海浜鉄道の延伸	市民や観光客の利便性向上等による地域活性化を図るため、海浜公園西口付近まで延伸する。	延伸実施のための事業許可を取得するとともに、補助申請の準備など、関係機関との協議を経て事業実施段階に入っている。	課題1	施策①
②ひたちなか海浜鉄道の新駅設置	美乃浜学園の児童・生徒の通学手段を確保するため、新駅を設置するほか、利用状況などを踏まえ、新駅の設置についても検討する。	「美乃浜学園」の開校にあわせ、令和3年3月13日に新駅「美乃浜学園駅」を開業。児童・生徒の通学手段の確保を実施。	課題1	施策①
③公共交通結節点の整備	延伸にあわせて、国営ひたち海浜公園西口前に駅前広場を整備する。	延伸事業実施や着手に向けて、関係機関との協議を進めている段階であり、駅前広場の整備には至っていない。	課題1	施策①
④佐和駅の東西自由通路設置及び駅舎橋上化	佐和駅東側の利便性向上と、線路により分断された地域の交流・活性化を図るため、東西自由通路の整備及び駅舎の橋上化を実施する。	JR佐和駅の橋上化および東西自由通路の整備を完了し、令和5年9月2日に供用を開始。これにより、線路で分断されていた地域の一体化と利用者の利便性向上が図られた。	課題1	施策②

参考資料1 現計画の取組状況と次期計画への対応

計画目標②	まちづくりと連携した公共交通体系を目指します			
網形成計画の取組	取組概要	取組状況（達成内容）	対応する課題	施策案との対応
⑤駅前空間の環境整備	ひたちなか海浜鉄道において、駐車場や花壇などの駅前環境の整備について地域と連携しながら実施する。	磯崎駅のトイレ改修や防犯灯設置のほか、地域と連携した美化活動を実施。	課題3	施策⑥
⑥交通施設のバリアフリー化推進	バスや鉄道の車両及び主要な駅・停留所のバリアフリー化を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 茨城交通ではノンステップバスを、平成29年度の15台から令和2年度までに34台、令和7年2月現在では43台までに増車。現在は約9割の車両がノンステップバスとなっている。 また、令和3年3月13日に開業した「美乃浜学園駅」では、スロープや点字ブロックなどのバリアフリー化を実施。 	課題1	施策②
⑦商店街との連携事業の促進	ひたちなか海浜鉄道について、商店街と連携したPRや公共交通利用者割引特典などの利用促進策を推進する。	海浜鉄道の利用者を対象に、おらが湊鐵道応援団で発行する「乗車証明書」を沿線の店舗や旅館等に呈示することにより各店オリジナルサービスが受けられる取組を実施	課題3	施策⑥
⑧観光地へのパークアンドライド駐車場の整備	おさかな市場やひたちなか地区周辺の渋滞対策及び湊線の利用促進策として、パークアンドライド駐車場を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> パークアンドライドの整備については、候補地の選定や費用面の課題から整備に至っていない。 一方で代替案として、茨城県と連携し、多客期における渋滞対策として、ひたち海浜公園付近の国有地及び県立海洋高等学校グラウンドに臨時駐車場を活用している。 	課題3	施策⑥

参考資料1 現計画の取組状況と次期計画への対応

計画目標② まちづくりと連携した公共交通体系を目指します				
網形成計画の取組	取組概要	取組状況（達成内容）	対応する課題	施策案との対応
⑨地域との連携推進	自治会やコミュニティなどの地域の団体と連携し、利用促進体制の構築など地域で公共交通を支える体制の構築を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 「湊鉄道対策協議会」において、海浜鉄道の回数券を自治会員向けに割引販売し、利用促進を実施。 令和6年度は市内84自治会のうち38自治会が購入し、取組が広がっている。 	課題3	施策⑥
⑩環境施策との連携推進	県央地域市町村と協調して、公共交通の利用を促進するためノーマイカーデーを実施する。	毎年6月と12月にノーマイカーウィークを実施し、公共交通の利用促進を図る取組を推進している。	課題3	施策⑥

参考資料1 現計画の取組状況と次期計画への対応

計画目標③	公共交通の意識醸成を図り、公共交通全体の利用拡大を目指します			
網形成計画の取組	取組概要	取組状況（達成内容）	対応する課題	施策案との対応
①日常的な利用を促進する料金体系の導入	スマイルあおぞらバスで回数券や1日乗車券の発行、乗り継ぎ券の発行など利用促進について検討する。	11枚セットの回数券を1,000円で販売するほか、令和7年度には、国の交付金を活用して、11枚セット回数券を600円にて割引販売を実施。	課題2	施策③
②時刻表の見直し	路線図付時刻表のほか、地区別時刻表、コース別時刻表、乗り継ぎ時刻表など、利用者のニーズに即した時刻表を作成する。	・ダイヤやルートの変更に合わせ、随時時刻表の修正やデザインの変更を行っている。 ・また、市公式LINEで「海浜鉄道」と「スマイルあおぞらバス」の時刻表を確認できるようにした。	課題3	施策⑤
③公共交通総合パンフレットの作成	市内公共交通全体の総合的な利用パンフレットを作成する。	スマイルあおぞらバスのルート図に鉄道の路線・駅や市内バス路線、主要停留所を掲載した。	課題3	施策⑤
④利用ニーズの把握と反映	スマイルあおぞらバスへの乗車アンケートの実施や利用者懇談会を開催するなど、利用ニーズを把握する。	・小中学生や高齢者乗車無料期間の実施において、利用者アンケートを実施。 ・また、計画策定にあたり、一般アンケートや高齢者アンケート、グループインタビューを通じて、スマイルあおぞらバスの改善につながる意見の把握にも取り組んだ。	課題2	施策③

参考資料1 現計画の取組状況と次期計画への対応

計画目標③	公共交通の意識醸成を図り、公共交通全体の利用拡大を目指します			
網形成計画の取組	取組概要	取組状況（達成内容）	対応する課題	施策案との対応
⑤公共交通教育の推進	バスの乗り方教室やモビリティマネジメント教育などの公共交通教育を推進する。	産業交流フェアのバス運転士体験や湊線の周年祭等を通じて、公共交通に触れる機会を作り、公共交通への意識醸成や利用を促進している。	課題4	施策⑨
⑥広報活動の強化	行政と事業者が協力し、産業交流フェアやその他イベント等にブースを出展するなど、公共交通利用の意識付けを図ります。	産業交流フェアなどで行政と事業者が協力し、公共交通のPR活動を実施。	課題4	施策⑨
⑦ICカード導入の検討	スマイルあおぞらバスへのICカード導入を検討する。	ICカードの導入については、技術の進展の過渡期にあり、本市適合性も含めて調査を実施している段階であり、導入までには至っていない。	課題3	施策⑦
⑧運転免許返納者への対応	運転免許返納者に対するコミュニティバスの1年間乗車無料措置を継続するとともに、他の公共交通機関への拡大について検討する。	運転免許返納者に対するコミュニティバスの1年間乗車無料措置を実施。	課題2	施策④

参考資料1 現計画の取組状況と次期計画への対応

計画目標④ 安全安心な公共交通を目指します				
網形成計画の取組	取組概要	取組状況（達成内容）	対応する課題	施策案との対応
①コミュニティバス車両の更新	導入から10年が経過し、年間6万キロを超える運行をしていることから、計画的に車両を更新する。	令和元年度から令和4年度までにバスを毎年1台更新し、令和元年度、4年度、6年度にワゴン車を1台ずつ更新している。	課題2	施策③
②ひたちなか海浜鉄道車両の購入	ひたちなか海浜鉄道湊線の延伸に合わせ、運用の増加に必要となる車両を購入する。	令和6年度に2台の車両を更新し、1台を増台する計画であり、令和7年度より計9車両にて運用している。	課題1	施策①
③鉄道施設更新の推進	湊線第二期基本計画及び湊線第三期基本計画に基づき、施設や設備などの更新を計画的に実施し、海浜鉄道の安全な運行を確保する。	湊線第四期基本計画に基づき、老朽化した施設や設備などの更新を計画的に実施。	課題1	施策①

参考資料2 これまでの活性化協議会・小委員会のご意見について

内容	対応する課題	施策案との対応
<ul style="list-style-type: none"> 平磯地区で経路が遠回りであったが、「平磯・那珂湊市街地コース」がH30に導入されたことで改善され、利用しやすくなった。 遠回りしなくて済む経路をさらに考えることで、利用しやすくするだろう。 想定している目的地の充実（特に小さな病院・診療所、買い物先）により利用が増えるであろう。 路線の数を増やしてはどうか。（遠回りしていた路線を複数路線に分ける、目的地の充実等） 自宅からバス停までの距離の最適化。 利用者が増加傾向で、乗り切れなくなることへの対応が必要。 	課題2	施策③
<ul style="list-style-type: none"> 運賃を値上げし路線を増やした方がよい。 	課題2	施策③
<ul style="list-style-type: none"> 市外への移動での公共交通の利用促進。（通学、レジャー、廃止の高速バスを利用していた人なども） 市内高校への通学での公共交通の利用促進。 車いす使用者の公共交通の利用促進。 	課題3・4	施策⑥・⑨
<ul style="list-style-type: none"> 車を運転できない人に対し、スマイルあおぞらバスの情報を提供したら利用するようになる人がいるかもしれない。 時刻表のオープンデータだけでなく、位置情報も提供できるので、それを活用した利用促進ツールを交通事業者に限らず開発してもらえるとよい。 	課題3・4	施策⑤・⑦

参考資料2 これまでの活性化協議会・小委員会のご意見について

内容	対応する課題	施策案との対応
・乗継の利便性を高めるための、駅前広場等の空間の使い勝手の改善。	課題1	施策②
・観光需要に対応することが、市民の足を確保するためにも重要。	課題1・3	施策①・⑥
・人材確保の取り組みは、緑ナンバー全体、さらに時間帯によっては白ナンバーまで広げて考えてほしい。	課題3・4	施策⑥・⑧
・施策は地域特性に応じて検討すべき（場所によってニーズや効果が違う）。	課題1・2・3	施策①・②・③・④・⑥
・湊線延伸に付随した、公共交通ネットワーク強化の検討。	課題1	施策①・②
・人材確保の取り組みは、介助を伴う介護タクシー人材も含めて考えるべき。	課題5	施策⑩
・介護保険の通院等乗降介助の担い手が減っていてサービスが困難になっている状況。	課題5	施策⑩
・ドアツードアを必要とする人へのサービスはどうか。（介助を伴わないデマンドタクシー、一括定額契約のタクシー配車）	課題2・4	施策④・⑨
・フレイル高齢者を対象とした公共交通の利用促進。		
・元気な高齢者を対象とした公共交通の利用促進。		

参考資料3 10/29計画策定特別小委員会 対面協議での意見

1 立地適正化計画を初めとする将来の人口分布・動態を意図した交通のあり方

- ・ 将来を見越し、少子高齢化への対応をしていくべきではないか。
- ・ 公共交通が便利になることで、人口維持など、将来的な効果も見込まれるので、近視眼的にならないようにしたい。
- ・ 若年層の運輸業界への就職を促す目的での、二種免許取得補助の導入を考えてほしい。(例:日立市)

2 市の財政支出の目的に整合するような、具体的な交通政策の市の負担

- ・ 市の負担を減らすことについて、どう考えるか。
- ・ 市民に公共交通の現状(収支率等)を理解してもらうのも大切。

3 利便性向上

- ・ 免許返納は、スマイルあおぞらバスが利用しやすくなり、初めて考えるので、継続して利便性向上に努めてほしい。
- ・ 介助や同行までは必要ない方へのドアツードアの検討を入れてほしい。

4 利用促進

- ・ 交通事業者は独自に利用促進策に取り組んできたが、今後も実施していきたい。

5 その他

- ・ 海浜公園のインバウンド客を対象とした乗合タクシーはどうか。

参考資料4 計画策定特別小委員会 書面協議での意見

1 立地適正化計画を初めとする将来の人口分布・動態を意図した交通のあり方

- ・ 人口減少が見込まれるため、コンパクトシティを目指し、人手不足も見据え、昭和通りを勝田駅から海浜公園方面への自動運転バスの導入などを検討してほしい。

2 市の財政支出の目的に整合するような、具体的な交通政策の市の負担

- ・ 市の負担のあり方など、少子高齢化の中、将来を見越して検討していくべき。
- ・ 対面協議ではデマンドタクシーに触れたが、費用がかさむため推奨しない。タクシーを活用する場合は、一括定額運賃を推奨する。・ 公共交通の社会的役割(地域経済の活性化・観光・福祉等)を市民に周知するとよい。

3 利便性向上

- ・ スマイルあおぞらバスの利便性向上を強く要望する。

4 福祉分野との連携

- ・ 公共交通が利用できる高齢者は電車やバスを利用し健康維持していただき、状況によってタクシーを活用し、介助が必要になった時に福祉的支援があれば、安心して住み続けられる。
- ・ 福祉有償運送は人材・財源不足で厳しい状況が続くが、協力していきたい。

5 その他

- ・ 持続可能な公共交通となるように、運転手の確保、採算性、利用者の状況、地域とのかかわりなど、様々な角度から検討してほしい。
- ・ 来訪者含めて、ホスピタリティにあふれた市であると評価してもらえるような計画になるとよい。

4 その他

次の協議会について

日程(予定)

令和8年1月下旬から2月中旬頃

議事(予定)

- ・ パブリックコメントを経た計画案の協議
- ・ 「地域公共交通確保維持改善事業」に係る事業評価 ※1

詳細は、別途ご案内いたします。

※1

計画策定について、本協議会で委託しています。

委託費は、国庫補助「地域公共交通確保維持改善事業」を受けています。

この補助においては、協議会において事業評価をし、地方運輸局に報告することとされており、それに基づき実施をするものです。

ひたちなか市地域公共交通計画(素案)の概要

1.序章

現状の成果と課題を整理し、将来に向けて持続可能な公共交通の姿を明らかにするとともに、目指すべき方向性と具体的な取り組みを示す計画。
策定根拠:地域公共交通の活性化及び再生に関する法律第5条 計画区域:本市全域 計画期間:5年間(令和8年度～令和12年度)

2.現況整理

◆市の現況整理(統計データ等から)

- ・平坦な台地が広がり、住宅地やスーパー、医療機関等が全域に分布。
- ・4つの都市拠点(中心市街地(勝田駅周辺)、那珂湊地区、佐和駅周辺地区、ひたちなか地区)に、行政・医療・商業などの都市機能を集積している。

◆公共交通の現況整理(統計データ等から)

- ・県内有数の公共交通網を形成している。
JR・湊線が広域・観光路線バス・スマイルあおぞらバスが面的補完。
公共交通カバー率:約88%(県内高水準)
利用者:コロナ禍以降回復傾向

◆市民ニーズの分析(アンケート・インタビューから)

- ・公共交通に関する情報の分かりにくさが、利用の障壁の一つである。
- ・公共交通を使っている人と、使っていない人で、傾向が異なる。
使っている人:公共交通への満足度が高い、生活リズムに公共交通が浸透
使っていない人:公共交通への満足度が低い

◆計画策定特別小委員会での議論

- ・少子化や働き方の変化により、定期利用者はコロナ禍前まで回復していない。
- ・運転手不足や勤務時間規制強化により、事業者を取り巻く環境が厳しくなっている。
- ・免許返納の促進や介護予防の効果も想定して、公共交通の利便性の向上が必要。
- ・介助や同行が必要で、1人では公共交通を利用できない方への観点が必要。

3.課題のまとめ

- 【課題1】広域交通ネットワーク及び階層化ネットワークを活かした連携の強化
- 【課題2】スマイルあおぞらバスの最適化
- 【課題3】誰もが利用しやすい公共交通サービスの提供
- 【課題4】既存の公共交通を維持する取組の充実
- 【課題5】介助や同行が必要な方の移動支援

4.基本方針

情報を届け、人と地域、未来へつなぎ、使いやすく持続可能な公共交通へ
—知つて、選んで、わたし流にアレンジ—

5.目標達成に向けた施策

【課題1】に対応 目標1「広域及び市内都市拠点をつなぐ」
施策①ひたちなか海浜鉄道湊線鉄道事業再構築事業の実施
施策②市内交通網の連携強化

【課題2】に対応 目標2「生活圏をつなぐ」
施策③スマイルあおぞらバスのルート等の改善
施策④生活圏内の移動に関する利便性向上策等の検討

【課題3】に対応 目標3「利用者と公共交通をつなぐ」
施策⑤わかりやすい情報の発信
施策⑥多様な主体と連携した利用促進
施策⑦ICT等を活用した技術の導入検討

【課題4】に対応 目標4「未来へつなぐ」
施策⑧公共交通を担う人材確保に向けた取組
施策⑨市民の公共交通に対する意識醸成と理解向上

【課題5】に対応 目標5「介助や同行が必要な方の移動をつなぐ」
施策⑩福祉分野との連携

6.目標の評価指標と計画の進行管理

評価指標①
4都市拠点間を結ぶ公共交通の運行回数
[現況(R7):246本→目標(R12):現況値を維持]

評価指標②
スマイルあおぞらバスの収支率
[現況(R6):11.3%→目標(R12):現況値を維持]

評価指標③
公共交通利用促進に係る連携団体数
[現況(R7):6団体→目標(R12):6団体以上]

評価指標④
スマイルあおぞらバスに関する出前講座等の実施回数
[現況(R7):(新たな取組のため)0回→目標(R12):8回以上]

評価指標⑤
分野間連携に関する協議の実施回数
[現況(R7):3回→目標(R12):4回以上]

6.目標の評価指標と計画の進行管理

【アウトカム指標】市内公共交通の利用者総計
[現況(R6):8,319,453人→目標(R12):8,411,000人]

- ・毎年度、公共交通活性化協議会において、取組状況や効果検証、取組の改善案等を協議。
- ・PDCAサイクルにより進行を管理する。